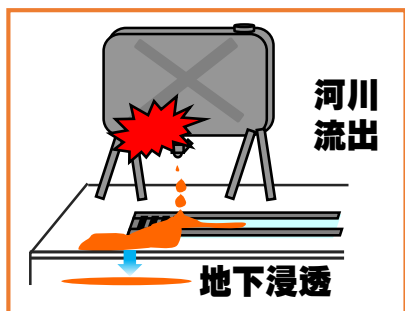


# 油流出事故を防ぎましょう！

## 作業ミスや施設の破損による油流出

冬期には、**重油のタンクや配管**などから油が漏れ出す事故が**多発**しています。原因の多くは、

- ①バルブの締め忘れや機械の操作ミスなどの「**作業ミス**」、
- ②タンクや配管の老朽化等による腐食・亀裂の発生などの「**施設の破損**」です！



バルブの緩み、締め忘れによる漏えい



除雪作業中、重機で配管を破損したことによる漏えい



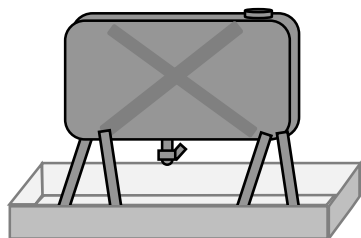
タンクや配管の腐食・亀裂の発生による地下への漏えい



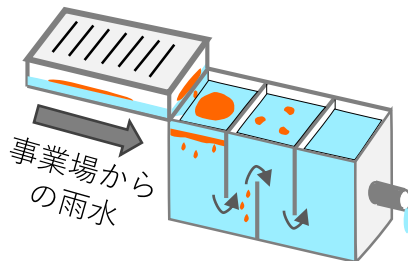
- 作業ミスを防ぐため、バルブなどへの注意書きの掲示、チェックリストによる作業手順の確認・徹底などに取り組みましょう。
- 除雪作業や掘削工事を行うときは、事前にタンクや配管の場所を確認しましょう。
- タンクや配管に腐食や亀裂がないか点検しましょう。また、こまめに油の消費量をチェックしましょう。

## 油流出防止のためのハード対策（例）

ハード対策を行い、事業場の外に油が流出しないようにしましょう。



防油堤の設置



油水分離槽の設置



油水分離槽は油がたまったら掃除しよう。

このほか、排水路への油膜検知器の設置など

注意！

流出した油の回収には、多くの人手がかかり、オイルフェンスや油の吸着マットなどを使用します。油を流出させた原因者には**回収費用の負担を求められる**ことがあります。また、農業・漁業、水道等への被害があった場合には、**損害賠償を求められる**こともあります。

# 万が一、油流出事故を起こした場合は、 応急措置と関係機関への連絡を必ず行ってください！

## 応急措置

### <漏えいや流出の拡大の防止>

- ① バルブを締める、遮断弁を閉じる。
- ② 流出する油を囲むように土のうを積む。
- ③ 関連施設を緊急停止し、油の拡散を防ぐ。



※ 緊急時に備え、吸着マットなどをあらかじめ用意し、訓練をしておきましょう。

### <汚染や被害の拡大の防止>

- ① 水路や河川にオイルフェンスを張る。
- ② 吸着マットやおがくずで回収する。古布等で拭き取る。
- ③ 油で汚れた土壌を取り除く。

**油処理剤は使用  
しないでください！**

※ 油処理剤は油を分解するものではありません。河川等へ流れると水質汚濁の原因となります。

## 連絡内容

- ① 発生・発見の日時・場所(地名、事業所名、流出した河川名など)
- ② 事故の内容(原因、油の種類など)
- ③ 規模(漏えい量など)
- ④ 被害状況と影響範囲(魚のへい死の有無、河川等の下流への流下状況、土壌への浸透など)
- ⑤ 講じた応急措置の内容



## 連絡先

### 環境の関係機関

富山県環境保全課 076-444-3146  
市町村環境関係課 076

### 危険物(油類など)の関係機関

消防署 119

連絡先を記入

### 河川や海の管理者などの関係機関

国土交通省富山河川国道事務所 076-443-4765  
国土交通省黒部河川事務所 0765-52-4687  
伏木海上保安部 0766-45-0118  
富山県河川課 076-444-3323

## 水質汚濁事故対応ハンディマニュアル(原因者の対応)

県ウェブサイトに掲載していますので、工場・事業場に備え付けるなどご活用ください。

<https://www.pref.toyama.jp/1706/kurashi/kankyoushizen/kankyou/kj00010320.html>



マニュアル